

広島県内陸部の河川敷におけるホオアカ *Emberiza fucata* の生息環境

上野吉雄¹⁾ *・石井秀雄²⁾・大竹邦暁³⁾

¹⁾ 広島県立広島西特別支援学校・²⁾ 広島県立千代田高等学校・³⁾ 広島大学大学院国際協力研究科

The Habitat of Chestnut-eared Bunting, *Emberiza fucata*, in along a River of Inland, Hiroshima Prefecture

*Yoshio UENO, Hideo ISHII and Kuniaki OTAKE

Abstract : A habitat survey of *Emberiza fucata* was carried out in the riverbeds of inland region of Hiroshima Prefecture, from 2011 to 2013. It was found that the grasslands, which was dominated by tall grasses such as *Miscanthus sinensis*, *M. sacchariflorus* and *Phragmites japonica*, were identified as an important habitat of *Emberiza fucata*. This study was carried out for the review on Red Data Book in Hiroshima Prefecture.

はじめに

ホオアカ *Emberiza fucata* はモンゴルからウスリー地方および日本列島にかけて繁殖し、冬季は東南アジアに渡り、西南日本では越冬するものがある(中村 2000)。国内では北海道、本州、四国、九州で繁殖し、草原や農耕地などに生息する(日本鳥学会 2012)。近年、中国地方では牧場や採草地などの草原環境が著しく減少しており(小椋 2012)、ホオアカの生息域も減少している。広島県内では、山県郡北広島町の牧場で繁殖していたが(日本野鳥の会広島県支部 2002)、1995 年以来、渡来しなくなった(上野 2007)。このようなことから、広島県により要注意種に指定されている(石井 2012)。また、近隣の山口県では、秋吉台や阿知須干拓地などの限られた地域で繁殖しているのみであるので準絶滅危惧に指定されている(山口県 2004)。島根県では、益田市の開拓地や浜田市などで少数のものが繁殖しており準絶滅危惧に指定されている(島根県 2014)。鳥取県では、1998 年以降繁殖の確認がないので絶滅危惧 I 類に指定されている(國本 2012)。岡山県では、蒜山高原で繁殖しており留意に指定されている(丸山・山田 2009)。

筆者らは広島県レッドデータブックの見直しのための現地調査において、2011 年から 2013 年にかけて広島県内陸部の河川敷においてホオアカの生息状況と生息地の植生について調査し、繁殖行動を確認したので報告する。

調査地

調査地は広島県内陸部の河川敷である。ホオアカが生息していたのは、河川敷に発達した草原で、高茎イネ科草本のススキ *Miscanthus sinensis* やオギ *M. sacchariflorus*、ツルヨシ *Phragmites japonica* が優占する群落が卓越している。この河川敷では哺乳類はホンシュウカヤネズミ *Micromys minutus hondonis*、ホンシュウジカ *Cervus Nippon centralis* が、鳥類はモズ *Lanius bucephalus bucephalus*、ウグイス *Cettia diphone cantans*、オオヨシキリ *Acrocephalus orientalis*、ホオジロ *Emberiza cioides ciopsis* などが繁殖している。なお本報告では、詳細な場所については本種の保護のため記載しない。

調査方法

調査は2011年から2013年にかけて行い、ホオアカの観察は8倍の双眼鏡と20倍の望遠鏡を用いて行った。また、2013年9月23日に、ホオアカが止まりや採餌に利用した場所の植生調査を行った。植生調査は、利用場所毎に、典型的な植生の中で2m四方の方形区を設定し、Braun-Blanquet（1964）の植生調査法を用いて行った。優占種が異なる複数の植生の利用があった生息地では、それぞれの植生について調査した。

調査結果

1. ホオアカの生息状況

(1) 調査地1の生息状況

2011年8月22日の6:30に成鳥1羽と幼鳥1羽を確認した。

2012年6月10日および6月16日にオス1羽がさえずっているのを確認した。7月7日にオス1羽、メス1羽を確認した。

2013年5月24日の17:30にオス1羽がさえずっているのを確認した。6月6日の6:10にオス1羽がさえずっているのを確認した。6月8日の6:50にオス1羽がさえずっているのを確認した。

(2) 調査地2の生息状況

2013年6月6日の7:25にオス1羽、6月14日にオス2羽がさえずっているのを確認した。

(3) 調査地3Aの生息状況

2013年6月1日の16:30、6月6日の6:30、6月7日の6:10および6月8日にオス1羽がさえずっているのを確認した。

6月12日の7:53にオスとメスが連れ立っているのを確認した（図版2-B）。8:25に交尾を確認した。18:30にメスが巣材をくわえて草の中に入り、オスが近くでさえずっているのを確認した。6月16日にオスが調査地3Bのオスと戦っているのを観察した。

6月21日、6月28日、8月2日、8月13日および8月17日にオス1羽がさえずっているのを確認した。

(4) 調査地3Bの生息状況

2013年6月1日の16:30、6月8日、6月21日、6月28日、8月2日、8月13日および8月17日にオス1羽がさえずっているのを確認した。6月6日の6:30にオス1羽が餌をくわえているのを確認した。6月12日にオスが調査地3Aのオスと戦っているのを観察した（図版1-G）。6月14日にオス1羽を確認した。6月16日にオスが調査地3Aのオスと戦っているのを観察した。

(5) 調査地3Cの生息状況

2013年6月6日の7:00にオス1羽とメス1羽を確認した。6月7日の6:10にオスとメスが追いかけあいをしているのを確認した。6月8日および6月12日にオス1羽がさえずっているのを確認した。

(6) 調査地4の生息状況

2013年6月8日の9:30および6月14日にオス1羽がさえずっているのを確認した。

2. ホオアカの利用場所の植生

(1) 調査地1の植生

利用場所は、高水敷の端の、低水河岸に沿う幅10m前後の帯状に残る高さ1～2mのやや乾燥した高茎草本群

表1 各調査地における出現種の被度と群度。種名の標記は、原則として河川水辺の国勢調査のための生物リスト（国土交通省2012）に従った。

調査地名 調査区番号 群落高(m) 植被率(%) 種数	1			2		3A			3B		3C		4	出現回数
	1	2	3	1	2	1	2	3	1	2	1	2	1	
種数	14	11	9	10	8	15	12	15	19	12	14	8	10	
種名	被度・群度													
(優占種)														
オギ	5・5	3・3							2・3					3
ススキ			5・5	4・4		3・3			1・2		1・1			5
メキシコハナヤナギ				3・3	4・4									2
<i>Gramineae</i> sp.					4・3									1
トダシバ	1・2	1・2	1・2	1・2			4・4		1・2			+		7
ツルヨシ	1・2					3・3				4・3	1・2	+2		5
カナムグラ									+	3・3				2
チガヤ							4・4							2
ヨモギ						+2	2・3	+2	+2					5
コウライシバ							4・4							1
メリケンカルカヤ		3・3						+			5・5	3・3		4
ヤハズソウ							+2				1・2	3・3		3
(随伴種)														
セイタカアワダチソウ	2・3		1・1			2・3			2・3	1・2	1・1			6
メドハギ	1・2	1・2	1・1								1・2	+		5
ニガカシュウ	1・2		+			1・2				1・2				4
カキドオシ	2・3					1・2							1・2	3
ナワシロイチゴ	1・2			1・1				+						3
イシミカワ	1・1				+					+2				3
ヤブガラシ	+		+2				+							3
ツククサ	+									+				3
イヌコウジュ		1・2					+2					1・2		3
オヘビイチゴ		+		+			+							3
ヘクソカズラ			1・2			1・2	+		1・3				1・2	5
<i>Mentha</i> sp.				+					1・2	+				3
ヒナタイノコズチ						1・2			1・2	+2				3
オニグルミ						1・1			1・1	1・1				3
チカラシバ						1・1			1・1		+			3
コゴメガヤツリ		+							+2					2
ノイバラ		+				+2								2
ヒメジョオン		+						+						2
ブタクサ		+										+		2
キンミズヒキ			+		+									2
ヤナギタデ				+	+									2
イ				1・1							1・2			2
ミヤマイボタ						1・2			1・1					2
スズメノエンドウ						+2			+2					2
ヒメムカシヨモギ							+	1・2						2
ガガイモ							+		+					2
キンエノコロ							+		+2					2
オッタチカタバミ							+				1・2			2
キツネノマゴ								+2		+2				2
アオツラフジ								+					+	2
シナダレスズメガヤ											1・1	+		2
イタチハギ	1・1													1
カワラヨモギ	1・1													1
フジ	1・1													1
スズメノテッポウ		+												1
スイバ			+											1
ツボスミレ				+2										1
オオバコ				+										1
ヤノネグサ					1・2									1
ウシクグ					+2									1
スギナ					+									1
エノキグサ							+							1
オオアレチノギク							+							1
ツルボ								1・2						1
オガルカヤ								1・1						1
ヤエムグラ								1・2						1
カヤツリグサ								+						1
シロツメクサ								+						1
ネザサ								+						1
アカネ									1・2					1
ノブドウ									1・1					1
ポントクタデ									+2					1
カラスウリ										+				1
ミズヒキ										+				1
カゼクサ											1・1			1
スズメノヒエ											+			1
ヒメクグ											+			1
メヒシバ											+			1
ツルウメモドキ													1・2	1
クズ													1・1	1
ミヤコイバラ													1・1	1
ゲンノショウコ													+	1
シロネ													+	1

落である。高さ 2m のオギやススキが密生する群落と、群落の高さ 1.6m のオギとメリケンカルカヤ *Andropogon virginicus* が優占する群落が共にホオアカに利用されていた。出現種数は 9～14 種で、草丈が高い 2 つの調査区では、密生した程に絡むニガカシュウ *Dioscorea bulbifera* やイシミカワ *Persicaria perfoliata*、ヘクソカズラ *Paederia scandens* 等のつる植物が見られた。草丈が低い調査区では、イヌコウジュ *Mosla punctulata* が開花していた (表 1)。

(2) 調査地 2 の植生

利用場所は、広い低水路に発達した草原の一部で、ススキ(高さ 2m)やメキシコハナヤナギ *Cuphea hyssopifolia* (高さ 1.2m, ミソハギ科)、イネ科高茎草本 (高さ 0.6m) の茂みが隣接する湿生草原である。出現種数は 8～10 種と比較的少なく、*Juncus effusus* var. *decipiens* やハッカ属の一種 *Mentha* sp., ヤナギタデ *Persicaria hydropiper*, ヤノネグサ *Persicaria nipponensis*, ウシクグ *Cyperus orthostachyus* といった湿生植物が混在していた。中央アメリカ原産のメキシコハナヤナギは、10m² 程度の範囲に多数の花序を伴うまとまった茂みを形成しており、枝の根元が木化していたことから、越冬している可能性がある (表 1)。

(3) 調査地 3 の植生

利用場所は大きく 3 ケ所に分かれていたが、いずれも広い高水敷から低水路のうち、高位面 (流路やその周辺の河原よりも高い平坦部) に発達した、オギやススキ、ツルヨシが優占するイネ科高茎草原を主としていた。ただし、調査地 1 及び 2 と同様に、付近に分布するトダシバ *Arundinella hirta* やメリケンカルカヤ、チガヤ *Imperata cylindrica* var. *koenigii* が優占する高さ 1m 程度の丈の低い植生が共に利用されていた。出現種数は 8～19 種で少ないながら幅があり、ススキとツルヨシ、オギとススキ並びにセイタカアワダチソウ *Solidago altissima* 等の組み合わせで、複数の同じ丈の優占種が拮抗する高茎の調査区では出現種数が多かった。丈の低い植生としては、砂泥が堆積したやや湿り気が多い場所のトダシバ群落や、細礫が多い乾燥したメリケンカルカヤ群落、堤防法面のチガヤ群落など、様々な植生が利用されていた (表 1)。

(4) 調査地 4 の植生

利用場所は高水敷きの堤防際のチガヤとヨモギ *Artemisia indica* var. *maximowiczii* が密生して優占する低茎群落で、出現種数は 10 種と比較的少なかった。周辺にはススキ等が優占する高茎群落が生育していた (表 1)。

考察

これまでホオアカは広島県内では、1984 年に山県郡北広島町の八幡牧場で、1992 年から 1995 年にかけて北広島町の俵原牧場で繁殖していた (上野ほか 1996, 日本野鳥の会広島県支部 2002)。八幡牧場は牧場の廃止後、臥竜山麓公園になったがその多くの場所が樹林化している。

俵原牧場は現在も放牧されているが、毎年ホオアカの繁殖期である 6 月に大型機械により牧草が刈り取られている。これらのことが原因となり県内では 1995 年以来、渡来繁殖しなくなった (上野 2007)。

しかし、今回の筆者らの調査で内陸部の河川敷で少数のものが繁殖していることが明らかになった。そこで、広島県レッドデータブックの見直しにおいて、調査地以外での県内における繁殖例の報告がなく、繁殖個体数も少なく、生息できる環境も劣化しており、繁殖地が局地的で、消滅しやすいという理由で要注意種に指定された (石井 2012)。

今回の調査で河川敷に発達したススキやオギ、ツルヨシが優占するイネ科高茎草原と、その周辺に分布するチガヤ、メリケンカルカヤなどが優占する低茎草原が、かつては牧場で繁殖していた草原性鳥類のホオアカの重要な生息地となっていることが明らかになった。高茎群落は主としてオスのソングポストとして利用され、低茎群落は主として採餌に利用されていた。本調査地におけるホオアカの繁殖個体群はきわめて小さく消滅する可能性があるため、今後も注意深くモニタリングしていく必要がある。

謝辞

本調査を行うにあたり、広島県版レッドデータブック見直しのための調査の機会を与えていただいた広島県環境県民局環境部自然環境課の方々、および調査に協力していただいた株式会社荒谷建設コンサルタントの加藤淳司氏にこの場を借りて感謝の意を表す。

摘要

1. 広島県レッドデータブックの見直しのための現地調査において、2011年から2013年にかけて広島県内陸部の河川敷においてホオアカの生息状況を調査した。
2. 河川敷に発達したススキやオギ、ツルヨシが優占した草原が、かつては牧場で繁殖していたホオアカの重要な生息地となっていることが明らかになった。

引用文献

- Braun-Blanquet J. (1964) Pflanzensoziologie, Grundzüge der Vegetationskunde, 3 Aufl. Springer-Verlag
- 石井秀雄 (2012) ホオアカ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) - レッドデータブックひろしま 2011 - : 84. 広島県
- 国土交通省 (2012) 河川水辺の国勢調査のための生物リスト (2012年9月5日更新). 河川環境データベース. 国土交通省. <http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/mizukokuweb/system/seobitsuList.htm> 2013.10.5
- 國本洗紀 (2012) ホオアカ. レッドデータブックとっとり改訂版 - 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物 - : 60. 鳥取県生活環境部公園自然課
- 丸山健司・山田信光 (2009) ホオアカ. 岡山県版レッドデータブック 2009 - 絶滅のおそれのある野生生物 - . 92. 岡山県環境文化部自然環境課
- 中村登流 (2000) ホオアカ. 日本動物大百科 鳥類 II : 144. 平凡社
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録 改訂第7版. ニホン鳥学会編集委員会
- 日本野鳥の会広島県支部 (2002) ひろしま野鳥図鑑増補改訂版. 中国新聞社
- 小椋純一 (2012) 森と草原の歴史. 古今書院
- 島根県 (2014) ホオアカ. 改訂・しまねレッドデータブック 2014 動物編 ~ 島根県の絶滅のおそれのある野生動物 ~ : 60. 島根県環境生活部自然環境課
- 上野吉雄 (2007) 芸北の草原性鳥類について. 高原の自然史 12 : 103-105
- 上野吉雄・保井浩・山本裕 (1996) 広島県芸北町の鳥類. 高原の自然史 1 : 291-393
- 山口県 (2004) やまぐちの野鳥. 山口県環境生活部自然保護課



A: 調査地 1-1 高茎オギ群落	2013年9月23日
B: 調査地 2-2 高茎ススキ群落	2013年9月23日
C: 調査地 2 に生育していたメキシコハナヤナギ	2013年9月23日
D: 調査地 3B-2 高茎ツルヨシ群落	2013年9月23日
E: 調査地 3C-2 低茎メリケンカルカヤ群落	2013年9月23日
F: 調査地 4-1 低茎チガヤ群落	2013年9月23日
G: ホオアカ (オスの争い)	2013年6月12日



A: ホオアカ (オス)
B: ホオアカ (つがい)

2013年6月12日
2013年6月12日